

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
M314Y205	化学 (Chemistry)					臨床医工学コース専門分野	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	1	2	医学部先進医療科学科	前期	水5	日本語		単独					
担当教員	氏名 花田 克浩 E-mail hanada@oita-u.ac.jp 内線 5144												
授業の概要	生物を対象とした分析化学について学修する。その理解のために必要な生物物理化学的知識を養うために、生物物理化学領域の講義を前半に行う。後半部分では、実践的な分析化学について解説する。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	生物物理化学の基礎を理解できる。												
目標2	分析化学の基礎を理解できる。												
目標3													
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							5		5				
授業の内容													
1	化学平衡												
2	定量解析												
3	化学発光/蛍光解析												
4	生化学解析(光を利用した解析)												
5	生化学解析(その他の定量解析)												
6	構造解析(X線、NMRを用いた構造解析)												
7	構造解析(質量解析、1分子解析)												
8	総括												
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
ラーニング	A:知識の定着・確認	A:講義内容の復習、レポート					工 夫 そ の 他 の						
	B:意見の表現・交換	B:講義中の発問、ディスカッション											
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	講義内容の予習(15h)。											
	事後学修	講義内容の復習(20h)。											
	想定時間合計	35											
教科書	朝倉書店 生命科学における分析化学 2015年 ISBN:978-4-254-34021-1 C3047												
参考書	特に指定しない。												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	試験	80%										
レポート	20%											
注意事項												
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	公衆衛生学（大学）、薬理学（大学）、検査データ解析（専門学校）											
実務経験を いかした教 育内容	これまで分子生物学的研究を行ってきた経歴を生かし、生命現象を解明するために必要な分析化学の知識を解説していく予定である。											